

# 社会を映した 2020-2022年新型コロナ報道 の日中対照

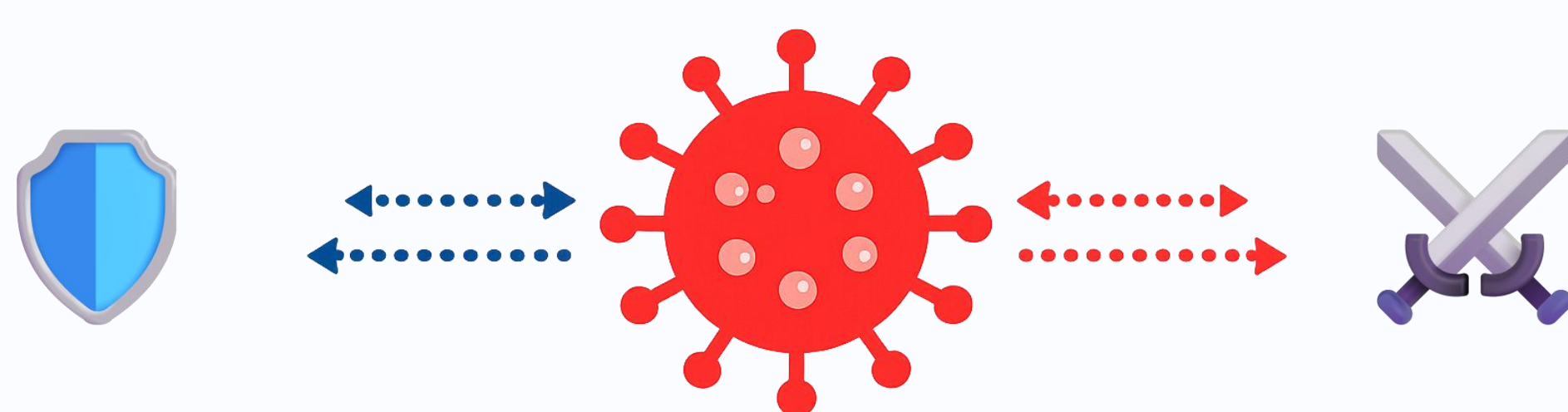
Nie Yuchen  
聶 雨晨

北海道大学 大学院 文学院  
言語科学研究室



## 未来社会のあるべきかたち

- ◆ 公衆衛生上のリスクが正しく伝わる社会
- ◆ 報道を冷静に読み解ける社会
- ◆ 多様な語り方を知り、多角的に考える社会



コロナ禍は世界共通の危機だった。しかし、その危機はメディアたちに同じ形で描かれたわけではない。  
本研究は、2020～2022年のNHKとChina Newsのコロナ禍記事を収集し、コーパスを独自に構築した。

### NHKの報道



「警戒」「防ぐ」「守る」の語りが中心となり、自粛を求めながら感染防止と社会活動の両立を図る姿勢が表されていた。

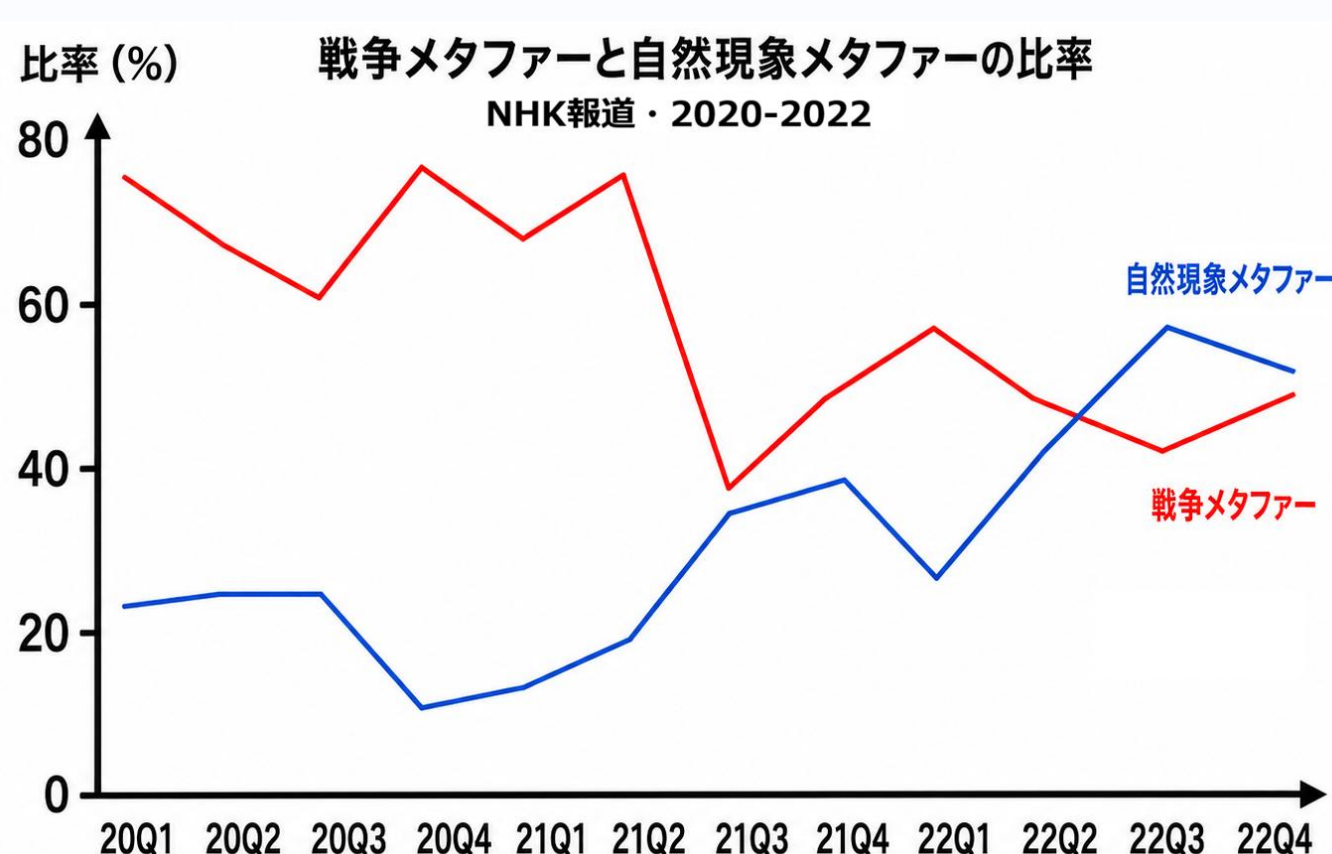
### China Newsの報道



「指揮」「戦士」「勝利」の語り为中心となり、人員も資源も統一的に調達し、各回の感染拡大を速やかに終息させる姿勢が映し出された。

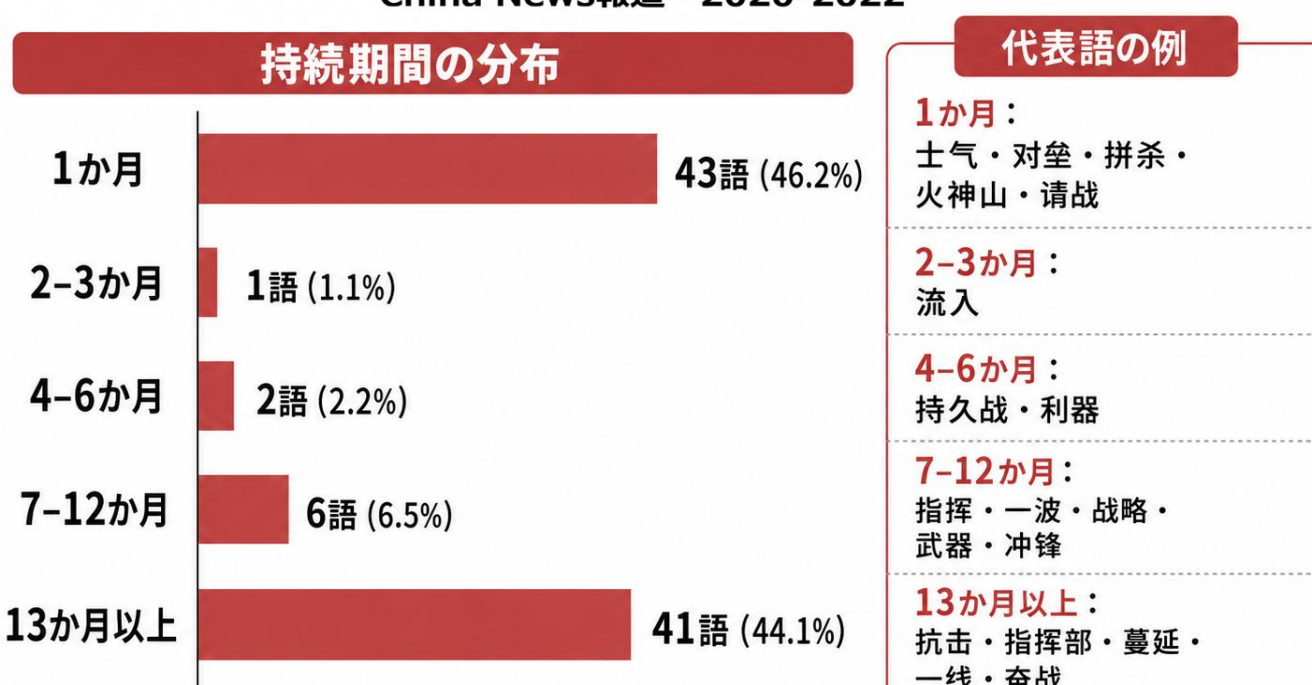
同じ「戦争」メタファー表現には異なる危機管理の考え方が現れた

## メディアの語り方はどうやって変わっていく？



戦争メタファー表現が消えず、自然現象メタファー表現（感染の「波」など）がどんどん多くなっている。

### メタファー語彙の持続期間には大きな偏りがある China News報道・2020-2022



短期間で消える語と長く使われる語の二極化が見られる。

なぜばらつきがあるかは今後の課題。

繰り返される言葉と、いつの間にか消えていく言葉に目を向けると、危機の語られ方が政策や報道姿勢によって組み替えられていたことが見てくる。

